



2月14日(日)実施予定の例会(香芝をめぐる)は中止とします



1/7日に首都圏4都県に出された「緊急事態宣言」は、1/13には大阪・京都・兵庫・愛知・岐阜・福岡・栃木の7府県が追加され、また熊本県・三重県・茨城県・長崎市は独自の緊急事態宣言を発表するなど、全国に広がりを見せています。

関西のこうした地域に隣接している奈良県も、このところ感染者が増加傾向にあり、確保病床の全体に対する使用率もステージ4基準の50%を越す現状にあります。また平群町もほぼ毎日感染者の発生が報道されています。

このように、私達を取り巻く状況はさらに悪化する傾向が考えられ、今後の見通しも立たないため、急遽2月の例会は中止せざるを得ないとの決断をしました。大変残念ではありますが、何卒皆様のご理解をお願い致します。

尚、3月以降につきましては、状況を判断しながらお知らせ致します。

冊子配布のお知らせ

この度「平群町観光ボランティアガイドの会」が冊子「平群の今むかし」～次の世代に伝えたい～を発刊されました。

内容は平群町各地域に残る、またはかつてあった伝統文化・行事を地域の年配者・識者から聞き取りをしてまとめたもので、平群史蹟を守る会々員にとっても平群を知るために役立つものです。

発刊に当たり当会に10冊の寄贈がありましたので、70冊を追加依頼して全会員に配布します。費用につきましては出版協力金として会より支払いさせていただきます。

～馬見古墳群 南群をめぐる～

年が明け、依然として収束の見えないコロナ禍の中ではありますが、検温と手指消毒の対策を周到にして1月10日に、およそ1年ぶりに例会を開催しました。行き先は昨年4月例会の予定地でしたが、コースを少し変更しました。

「天気晴朗なれど風強し」でまだまだ先行きの厳しさが感じられる中、17名（会員14名、当日会員3名）の方が参加され、通常の例会より時間を短縮するスケジュールで、馬見丘陵地に向かいました。

奈良県内には「古墳群」と言われるところが3か所あり、大和・柳本古墳群、佐紀楯列古墳群と馬見古墳群です。馬見古墳群は一般的には5世紀代に天皇の外戚として勢力を誇った葛城氏の墓の域とされていますが、断定はできないようです。



有井弘法井戸と環濠集落

JR 高田駅の北西、磐園小学校の西に、有井弘法井戸があります。弘法大師の井戸や湧水にまつわる伝説は近畿各地や四国にあります。平群町内にも福貴や三里に「弘法井戸」と伝えられる井戸が残っています。

大和平野の中心部には周囲を堀で囲んだ環濠集落が多く見られますが、なかでも二重環濠になっている有井地区は有名です。環濠の目的は水利と村落自衛のためと考えられており、狐井塚古墳に移動する道すがら、その名残が見られました。



池田遺跡から狐井塚古墳へ

JR 和歌山線南側の平坦地の遺跡です。現在は全く面影がありませんが、多数の古墳が確認されています。周豪内から盾を持った人物や鞆（ゆぎ:矢の収納具）を背負う人物や巫女、家、馬、鳥などの形象埴輪や須恵器が出土しています。狐井塚古墳と共に、築山古墳を盟主とする馬見丘陵南端部の古墳群を形成していると思われます。

狐井塚古墳は陵西（おかにし）陵墓参考地として宮内庁が管理しており、立ち入りは禁止されています。後円墳の西側から北東へ半周して前方墳北東角まで歩きましたが、周濠の一部が道路や駐車場になっており、周辺は新興住宅地となって、家屋が密集していました。

築山古墳

狐井塚古墳から住宅街と公園を通り抜けると、築山古墳南側の周濠にでます。

全長210m、後円部直径120m、前方部幅105mと馬見丘陵に分布する前方後円墳では最大級で、威



容に圧倒されます。墳丘南側のくびれ部分に作り出しが確認できました(南側だけです)。

立ち寄ることはありませんでしたが、東に位置するコンピラ古墳(直径9.5m)は円墳としては国内で3番目に大きい古墳ということでした。

春日若宮神社から新山古墳へ

築山児童公園でちょっと早い目の昼食を済ませて、春日若宮神社に向かいました。松の内を過ぎて撤去されたようですが、下見に行った1月6日には立派な門松が飾られており、地元の氏子さんが大切に祀っておられるのが感じ取られました。

次に馬見丘陵周辺では最も古いと言われています、新山古墳へ。この古墳は前方後方墳で、広陵町史によれば新山古墳、新山西古墳と2基が連なっていたようですが、現在西古墳は住宅地になっています。出土した銅鏡34枚の中には三角縁神獣鏡があり、二神二獣、三神三獣、四神四獣など数種類あったことが確認されています。前方墳の最北の一部(繁田の推測です)が「新山緑地」となっていて、桜やモミジが植栽されています。春にはここでお弁当を広げるもの一興です。



モエサシ古墳・エガミ田古墳

新山古墳の西、谷を挟んだ丘陵地にある「みささぎ台公園」内にモエサシ古墳があります。前方後円墳(3号墳)を挟むように北に1号墳(円墳)南に2号墳(円墳)があります。また公園北東部に、黒石13号墳の横穴式石室が移築されていますが、移築の経過は不明です。

町の「文化財と自然探訪マップ」ではここから西に約3分の位置に、エガミ田古墳(6基)があると記されています。下見の際、該当地が「黒石公園」と案内板に書かれていたことから、この古墳が「エガミ田古墳」であるということに結びつかず、30～40分、「エガミ田古墳」を探し続けました。また、同案内板には「3基の古墳」と書かれていたため、参加者で6基の古墳があるのかどうか、確認しようと試みましたが、周辺一帯は区画整理事業が施され、住宅地になっていましたので、発見できませんでした。



帰路は近鉄築山駅まで約10分歩きましたが、見晴らしがよく三輪山や耳成山まで見え、改めて一帯が丘陵地と言うか、かなりの高台であることに気づきました。築山駅から近鉄高田駅→JR高田駅→王寺のコースを取り、王寺着15時、通常の例会に比して時間も若干短縮して余裕の行程でした。(繁田)

樗井城跡案内板の除幕式が開催されました

2020年12月21日(日)、樗井城跡に平群史蹟を守る会によって設置された案内板の除幕式が行われました。

当日は前日までの強風も収まり絶好の式典日和、御来賓として平群町長をはじめ樗井城南1郭地権者・樗井城跡整備管理組合・平群町観光ボランティアガイドの会・施工業者倉本工芸の各代表をお迎えし、会員他関係者約30名が参加して式典が執り行われ、案内板の披露と平群町への贈呈式が行われました。



朝日新聞に掲載された記事

2020年は未知の新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり、平群史蹟を守る会の行事である3月の総会や4月以降の月例会が中止となり、さらに9月に予定されていた創立50周年記念事業もコロナ対策のために講演会と展示会が延期をせざるを得なくなりました。

このような状況にあって、「樗井城跡の案内板設置」については、町をはじめ上記の地権者、管理組合の方々にも快くご理解とご協力を頂き、創立50周年を迎えた記念事業として実現の運びとなりました。実行委員会の熱意のもと河本会長自ら案内板の設計や強度計算等を手掛け、各関係機関との交渉や承認申請などの多くの手続きを経て完成したものです。

式典当日は予想を超える多くの方の参加がありました。平群史蹟を守る会の50周年の記念事業の多くが延期をせざるを得ない状況でしたが、そのような中で「樗井城跡案内板の設置」が実現できたことは私たちにとって大変明るい話題でした。平群谷を一望に見渡せる樗井城跡に設置された案内板をこれからも大事に守っていききたいと思います。

余談になりますが、案内板のある山の名前をご存知ですか？
この山の地権者東さんに聞くと、子供の頃は通称「城山」と言っていたということです。この他「常念寺山」「峰^{みね}んど山」とも言われたそうです。